

I 事業概況

2022年度においても新型コロナウイルス感染症は収まらず、8月及び12月には国内で大規模な感染拡大が発生しました。当財団内の各施設においても断続的にクラスターが発生し、診療や手術、入院、介護などへの影響は避けられませんでした。

この結果、医業収益は前年度比228百万円（1.0%）減少して23,662百万円、医業費用は711百万円（3.0%）増加して24,345百万円となり、本業の収支である医業損益は683百万円の赤字を余儀なくされました。しかしながらコロナ関連補助金などにより、当期純利益は814百万円を確保して7期連続の黒字決算となりました。

当年度事業計画に対する主な実績は下記のとおりです。

1. 診療報酬改定への対応

2022年度診療報酬改定により新設された項目では、救急や手術等の高度かつ専門的な医療体制を評価する急性期充実体制加算や情報通信機器を用いた診療による初診料等への加算、看護補助体制充実加算、早期栄養介入管理加算、外来緩和ケア管理料などを取得し、収益に寄与しました。

また、コロナ感染第7波・8波の影響等により年間を通して厳しい診療体制を強いられましたが、地域医療の中核病院としての使命を果たした結果、2023年度の診療報酬に適用されるDPC機能評価係数Ⅱは、大学病院を含むすべての対象病院（国内1,761病院）のなかで、過去最高となる第17位（民間病院では第1位）という高い係数を取得することができました。

2. 働き方改革の推進

2024年4月から始まる医師の時間外労働規制への対策としては、9月に医師労働時間短縮計画の策定が完了するとともに、11月には労働基準監督署から芦ノ牧温泉病院における宿日直許可が下りました。

また看護師については、救急室と10階西病棟を除くすべての病棟で二交代勤務制を実施しました。

職員の労働時間を適正に管理するために、時間外勤務申請に関する新システムを開発し、時間外勤務の事前申請や出退勤時刻と始業・終業時刻との乖離時間を管理するとともに、医師のみなし時間外労働を止めて、勤務時間と自己研鑽・休憩等の時間の区別を明確にすることとしました。

3. 人材の確保

医師については、福島県立医科大学をはじめ各大学から安定的に派遣を受けるとともに、直接応募や人材紹介会社の仲介等により、外科医1名・消化器内科医2名の採用が決定しました。初期研修医についても前年度に続き定員12名がフルマッチとなりました。

新たな人材確保策として、中途採用者に対する就職支度金制度等を創設するとともに、看護事務アシスタントを採用し、救命救急士の雇用も検討することとしました。

新設した医師・薬剤師修学資金貸与制度については、財団HPへ掲載し、全国主要大学等へ案内したところ、医学部生1名及び薬学部生2名に対し、書類選考・面接を経て貸与を開始しました。

ベトナム人技能実習生は、第1期生2名が12月に特定技能に移行し、第2期生7名は6月からケア・アシスタントとして勤務を開始しました。

4. DXの推進

会津若松市のデジタル田園都市国家構想における医療・ヘルスケアデータ連携事業では、循環器内科医の協力を得て遠隔診療を実施し、高血圧症などの生活習慣病の予防につなげる取り組みを実施しました。

病棟ナースコールのスマートフォン連携については、総合医療センター 8階全病棟で試行運用を開始するとともに、防犯の観点から顔認証による入退室管理システムを院内託児所に設置しました。今後は医局出入口にも設置して医師の出退勤管理に役立てる計画です。

また、IT資産管理システムを導入し、情報セキュリティ対策及びIT資産運用管理の強化を図りました。

5. 竹田リハビリテーション病院の建設

施工予定企業による企画設計及び基本設計を進め、前年度に続き、職種横断的プロジェクトチームによる新病院の在り方に関する検討会議を随時開催しました。

また、新病院建設の参考とするために、兵庫県内、鹿児島県内及び東京都内の病院を見学しました。

この結果、建設着工は2023年秋、竣工は2025年春を目指すこととなりました。

6. 立体駐車場の建設

竹田リハビリテーション病院の敷地となって消滅する駐車場を補完するために、旧託児所跡地に建設していた立体駐車場は、12月から稼働しました。

外構工事などを含めた総工費約385百万円は、全額を自己資金で賄いました。